

神社の杜(三十五)

御岳ビジターセンター 片柳 茂生

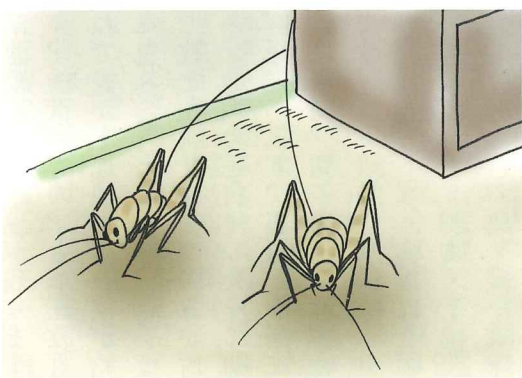
イゴの怪?

「イゴ」、何のことか分りますか? 当然のことながら「囲碁」ではありません。実は竈馬(カマドウマ)のことを御岳山ではこう呼んでいるのです。バツタによく似た昆虫で、ベンジヨコオロギとも呼ばれていますよね。なぜ御岳山ではこの竈馬のことをイゴと呼んでいるのでしょうか? それについては皆目見当もつきません。今回はそんなイゴについてのお話です。

暗くて風通しが悪くて湿気のある場所を好み、背中丸く、バツタの仲間のくせに羽はない、その代りと言っては変ですが鎧のような皮膚が体を覆い、体の数倍もある長い触角であたりを探りながら進み、ちよつと脅かすと強い後ろ足で大きくジャンプ。ジャンプした時に向かってくることもあります。コオロギや鈴虫のように虫籠に入れて飼おうとは絶対に思わない、むしろ見かければ追っ払うか、それともなければ叩きつぶしたくなる虫。シロアリのようには大きな害を及ぼすということはありませんが、ゴキブリと同じように何故か気持ち悪く駆除の対象と

なる虫。そんなイメージの虫です。私が、ある蒸し暑い夏の日に神社の宿直をしていた時にその怪現象はおこりました。

夜の十時頃、用を足したくない、神楽殿下のトイレの扉を開けたその時でした。目に映ったのはトイレの床を埋め尽くしてしまっ程のイゴ達でした。一体何匹いるのか数えることもできないくらいです。小さいイゴ、大きなイゴが入り混じって床で蠢いているのです。足を踏み出すと確実に数匹を踏みつぶしてしまう状態です。



にかくこんなすごい光景を見たのは初めてだし、イゴだらけの中で用を足すことなんてできません。今は、イゴを退治することよりもイゴが廊下に這い出すのを防ぐために扉を閉め、トイレを封印することが最善の方法だと気づきました。

翌朝トイレの様子を見に恐る恐る扉を開けました。すると不思議なことであれ程いたイゴが一匹も見あたりません。すべてのイゴが姿を消しました。

トイレの床はタイル張り、扉は隙間無く完全に閉まり、全くの密室状態です。唯一出入りできそうなところと言えば排水溝だけです。しかしながら排水溝の網は、大きなイゴが通り抜けできる隙間ではありません。一体何処から入り、何処に消えたのでしょうか? 神社の七不思議に加えたい程の出来事でした。

でも皆さんご安心下さい。もしあなたが御参拝の際にトイレに行つたとしても、そんな怪現象に出会うことは絶対に無いと思います。何故ならイゴは、主に夜行動する虫だからです。この怪現象に出くわす機会のあるのは、宿直している神主だけなのです。

表紙写真 鈴木 新吾

「霧の御嶽」

山々にたなびくように流れる山霧。川合玉堂作の「みたけ杣歌」では七代瀧から起つ狭霧と唄われ、深山の持つ美しさの一つとされています。

あとがき

表紙写真のように、神話に於いても霧深い山として描かれる御岳山の地。霧の中で道を迷わされた日本武尊を導き道を示した大口真神様。霧の中をたとえ歩むとも正しい道を歩み続ければ晴れやかな景色にいつかたどり着きます。霧がかつた様な現代社会の中で、大神様が照らして下さっている道を皆様がしっかりと歩まれますことを祈ります。久米御嶽講名誉講演元の下田様、斎藤慎一先生、ビジターセンター片柳様には、玉稿をありがとうございました。

平成二十二年九月三十日発行
〔年二回発行・非売品〕
編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四八(大) 八五〇〇
FAX 〇四八(大) 九七四一

印刷 (株)成和印刷
http://www.musashinotakejinja.jp/